こがらしの　ふく　ばん

小川未明

青空文庫

夜が　ながく　なりました。おかあさんは　おしごとを　なさって　います。その　そばで、きょうだいは　火ばちに　あたりながら、くりを　たべて　いました。

「リンリン　リンって、なんの　音だろう。」

ふいに、正ちゃんは　あたまを　あげました。

「ねずみが　おかってへ　でて、なべに　さわったのでしょう。」

と、おかあさんは　おっしゃいました。

「武ちゃんが　三りん車に　のって　いるのよ。」

と、つね子さんが　いいました。

「いまじぶん、だれが　あそんで　いるものか。」

しばらく　すると、また、「リンリン　リン。」と、いう　音が、かすかに　きこえました。

「ほら。」

「ほんとうだわ。」

おかあさんと　三人が　とを　あけて、そとを　ながめました。こがらしが　ふいて、すみわたった　いい　月夜でした。

かどの　たばこやの　まえに　ちょうちんの　火が　みえて、人力車が　みちを　きいて　いる　ようすです。そのうち　こちらへ　かけだして　くると、リンリン　リンと、しんぼう

に　はめた　かねの　わが　なりました。
　かさを　かぶった　おじいさんの　車夫です。そして　車の　上には、それは　きれいな　およめさんが　のって　いました。
　さむく　なって、三人は　とを　しめました。
「あれは　おばけで　ない？」
と、正ちゃんが　いいました。
「きっと　きつねよ。」
と、つね子さんが　いいました。
「いいえ、あの　おじいさんは、いつ　も　ていしゃばの　まえに　いる　おじいさんです。」
と、おかあさんが　おっしゃいました。
　きょうだいは　とこの　中へ　はいりました。その　とき、また　うちの　まえを　リンリン　リンと、とおる　音が　しました。いま　車やさんが、かえるのです。
　あとは、こがらしの　こえが　きこえました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　16」講談社
　1978（昭和53）年2月10日第1刷発行
　1982（昭和57）年9月10日第5刷発行
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：Juki
2012年7月16日作成
2012年9月28日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

こがらしの　ふく　ばん

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/